

## 人材育成を見据え長期的展望に立った作業システムの構築について

1. 林業事業者等名 木村木材工業(株) 山林環境緑化部 (埼玉県秩父郡小鹿野町)

### 2. 林業事業者の概要

①年間素材生産量 27,000m<sup>3</sup> (全て皆伐材、うち県産材 12,000 m<sup>3</sup>)

②生産する主な樹種 スギ・ヒノキ

③素材生産に関わる作業員数 22名 (1セット3~4名×6セット)

県内 作業員6名 (1セット3名×2セット (車両系))

請負4名 (1セット4名 (架線系))

県外 作業員2名・請負10名 (1セット4名×3セット (車両系・架線系))

### 3. 取組の特長

- ①国や県の事業の活用、農林公社や森林組合との連携による作業道開設と高性能林業機械導入による生産性向上、皆伐・再造林による循環型林業を目指している。
- ②各作業員が全ての林業機械に習熟し、全ての作業工程をこなせるようにしている。
- ③全量を約100社の製材工場に直送し、流通コストを削減、森林所有者への収益還元に努めている。
- ④立木買いは森林所有者との真剣勝負で、常に6年分のストック (森林の在庫) の確保を目指している (公売物件を含む)。

### 4. 具体的な内容

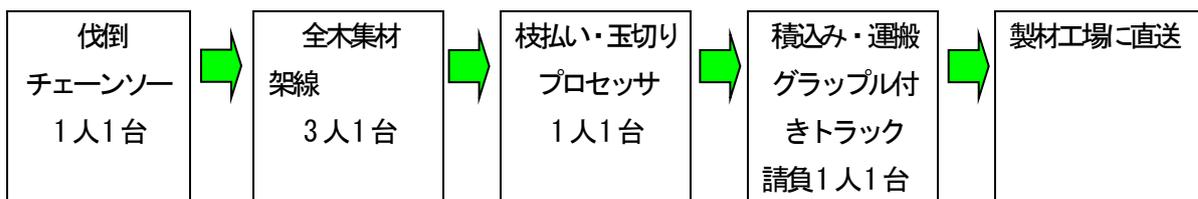
①施業方法：車両系システムによる皆伐

②使用機械：プロセッサ1台 (0.45 m<sup>3</sup>級)、ハーベスタ1台 (0.25 m<sup>3</sup>級)

ハーベスタ1台 (0.45 m<sup>3</sup>級)、フォワーダ2台 (3t級)

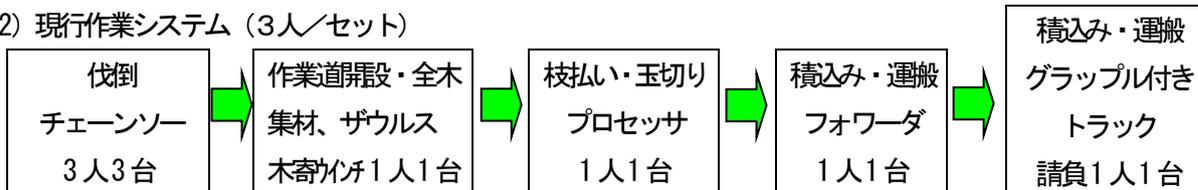
③作業システム：

1) 旧作業システム (5人/セット)



\*) トラックが横付けできる道脇に土場を設置。

2) 現行作業システム (3人/セット)



\*) グラップル付トラックに積載した丸太は、製材工場へ直送。

全木集材は、他の機械オペレーターも支援。

④森林作業道の作設方法：

現地の地形によって作業道開設と架線設置を使い分けている。

⑤労働生産性及び素材生産コスト：

皆伐	旧作業システム		新作業システム	
	労働生産性 (m <sup>3</sup> /人・日)	素材生産コスト (円/m <sup>3</sup> )	労働生産性 (m <sup>3</sup> /人・日)	素材生産コスト (円/m <sup>3</sup> )
	2.6~3.3	12,000	4.3~6.2	8,000~9,000

5. 今後の取組等

①循環型林業の推進

- ・農林公社や森林組合に頼らない自力での森林経営計画策定に取り組む。
- ・伐採跡地に造林を行い森林に戻すために苗木生産に取り組む。

②人材育成の強化

- ・現場に応じた効率の高い作業システムの選択ができる人材（架線系と車両系のどちらで行うのか、自ら作業効率を判断）を育成する。
- ・林業機械の構造や性能の理解促進（自ら維持管理）を図る。
- ・架線作業主任者の資格取得を促し、架線系システムに適した現場作業体制を整備する。



ザウルス



プロセッサ



フォワーダ

【問い合わせ先】

所属：埼玉県秩父農林振興センター  
 役職・氏名：林業普及指導員・田畑琢己  
 連絡先：0494-25-1312